



公開授業研究会～より良い授業づくりをめざして



9月16日(金)、本校第2回目の「公開授業研究会」が開催されました。これは、本校教員の授業を、町教育委員会や紀州教育支援事務所の指導主事をはじめ、他校の先生方にも広く公開し、忌憚のないご批判やご指摘を頂く…という、言わば「先生たちの勉強会」です。

今年度は年間4回の研究会を計画し、すべての教員が自らの授業を公開します。〔第1回(英語・数学)は6月に開催され、他校の多くの先生方に参加して頂きました〕

当日5時間目は、理科の授業「音による現象」。楽器、おもちゃ、紙笛、ストロー笛、水の入ったワイングラス等で音を鳴らす実験を通して、「音源は振動している」ことに気づくのが「ねらい」です。次から次へと先生が取り出して披露する、様々な音の出る「もの」に対して、生徒たちも興味津々。何とか自分で音を鳴らし振動を確認しようと、「あーでもない、こーでもない」と友達と協力しながらいろいろと挑戦していました。



6限目は、国語の授業「動詞の活用」。3つのパターンの動詞を活用の種類に応じて分けていく作業を通じて、「上二段活用」、「下二段活用」、「五段活用」の3つの活用についての理解を深める内容でした。

1人1台の端末(タブレット)と2台の電子黒板を駆使したICTフル活用の最先端の授業に、「文法」というどちらかと言えばとっつきにくい学習内容にもかかわらず、生徒たちは最後まで集中力を切らさずに授業に臨んでいました。

今回の2つの授業は、「アナログ」と「デジタル」といったとても対称的な授業でしたが、どちらが「良い」「悪い」ではなく、授業の中のどこで、どのように、

教師が生徒たちの学びを引き出そうとしていたか？

が大切なのだと思います。生徒たちが、仲間と協力しながら、気持ちを切らさず、自ら進んで課題に臨んでいこうとする授業。そんな授業を、これからもめざしていきたいと思います。



相野谷合同運動会～地域の方々に支えられて



台風接近に伴う不安定な天候に一喜一憂していましたが、子どもたちの日頃の行いが良かったからでしょうか、晴天の秋空のもと、9月25日(日)、相野谷公民館・相野谷保育所・相野谷小学校・相野谷中学校による「相野谷合同運動会」が予定通り開催されました。

中学生の演目は4つありましたが、その中でも特に「目玉」になったのが、17年もの伝統を誇る「南中ソーラン」、そして、熊野市でダンス教室を営む田畑麻子さんをゲストティーチャーに招いて練習してきたダンス

「September」、この2つの表現種目だったと思います。

2つの演目とも、当日の演技そのものも大変素晴らしかったのですが、特に私が「素敵だな」と思ったことが、「南中ソーラン」の練習の過程で、

3年生が中心となって下級生を指導する。



ことが、相野谷中学校では伝統となっていることです。

「優しく教えてもらって、できるようになる」ことは、下級生にとって「自分がとても大切に扱ってもらって、こんなに成長した」という「自己肯定感」の獲得につながります。また、「一生懸命教えて、その人ができるようになる」ことは、上級生にとってリーダーシップはもちろん、「自分はだれかの役に立っているんだ」という「自己有用感」の高揚につながります。

この2つの感情の感得は、教科や道徳教育等、学校のすべての教育活動における「土台」でもあり、よりよい相乗効果を生み出すための「目標」でもあります。

学校教育における様々な行事や取組を通じて、大切に大切に培っていききたいものです。

今年度の合同運動会も、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、開催時間の短縮や一般種目の割愛、観覧人数の縮小など、残念ながら規模を縮小しての開催となってしまいました。

本来、相野谷公民館を中心とした「地域の行事」であるにもかかわらず、地域の方々が参加できないことは本当に申し訳なく、残念な思いでいっぱいです。



にもかかわらず、事前の運動場の草刈り作業には、雨天にもかかわらず本当にたくさんの保護者・地域の方々がご協力くださいました。また当日も、朝早くからの会場の設営作業や、終了後の後片付けに至るまで、多くの方々にお手伝い頂きました。

心から感謝申し上げるとともに、来年こそはコロナ禍が収束し、学校・家庭・地域が共に手を取り合って汗をかくことができる運動会になることを祈りたいと思います。